

細江光洋没後十年写真展

飛騨に生まれ

飛騨の風土や人々の暮らしを撮り続けた

故人の業績を

末永く後世に残す足がかりとすることともに

あの頃の飛騨の暮らしを

思い返す一助となれば幸いです。

平成 25 年 8 月 17 日(土)～20 日(火)

高山市民文化会館 3 階講堂

<同時開催>

細江光洋門下生展 4 階大会議室

一般社団法人 高山市文化協会

3階講堂 細江光洋没後10年写真展

- | | | | |
|----|------------|----|----------------|
| 1 | 無題 | 34 | 身支度 |
| 2 | 無題 | 35 | わらうち |
| 3 | 無題 | 36 | わら細工 |
| 4 | 無題 | 37 | 点灯 |
| 5 | 無題 | 38 | 門徒たち |
| 6 | 無題 | 39 | 仕上げ |
| 7 | 無題 | 40 | 桶屋 |
| 8 | 無題 | 41 | 紙すき |
| 9 | 無題 | 42 | 渋草焼（とっくり） |
| 10 | 無題 | 43 | 春慶塗 |
| 11 | 無題 | 44 | 染め物 |
| 12 | 無題 | 45 | 手櫓 |
| 13 | 無題 | 46 | 土人形 |
| 14 | 無題 | 47 | 親子 |
| 15 | 無題 | 48 | 孫の守 |
| 16 | 無題 | 49 | かけっこ |
| 17 | 無題 | 50 | 鶏小屋 |
| 18 | 牛のいる風景 | 51 | 起こし太鼓 |
| 19 | 荷を運ぶ | 52 | ご神幸 |
| 20 | 豆蒸し | 53 | 雨 |
| 21 | 無題（楮の雪さらし） | 54 | 薪を運ぶ子供 |
| 22 | 雪ふみ | 55 | 無題（農作業の合間の親子） |
| 23 | 専勝寺の雪おろし | 56 | 無題（雪の高山「馬の運動」） |
| 24 | 「火の用心」夜廻り | 57 | まゆ取り |
| 25 | 雪踏み | 58 | 無題（路地裏での子供の遊び） |
| 26 | 室 | 59 | 無題（荷引き（馬）） |
| 27 | 雪下ろし | 60 | 無題（ちゃぶ台で食事をする） |
| 28 | 雪道 | 61 | 雪と戯れる |
| 29 | 大雪の朝 | 62 | 無題（リヤカーを引く人） |
| 30 | 雪遊び | 63 | 雪の日 |
| 31 | かまくら | 64 | 戸数八戸の集落 |
| 32 | スキー | 65 | 離村集落の狛犬 |
| 33 | 田うち | | 特別展示 善女竜王像 |

4階大会議室 細江光洋門下生展

細江篤史

我が家の宝物①
我が家の宝物②
我が家の宝物③

添野卓也

夜のエッフェル塔
プティ・トリアノン
ベルサイユ宮殿
ベルサイユの空

井上耕之助

砂丘の詩

田村小百合

祈りの詩

永田友一

マタニティ
仲良し！
ハッピー・ウェディング

和田佳代子

にらめっこ
ぼく、お殿さまだ！

原田文裕

蒼昊蒼海
おはようございます(原田さん)
清世清寧

漆原元彦

残したいどんど焼き

玉腰良平

お手伝い
おちゃめな子

茂住修史

エキサイティング・ニューヨーク
冬の蓮
悠々閑々

中村忠彦

初冬
冬の街
夜店
雨の農村

三嶋順二

光景 在りし日の名大関貴ノ花
光景 静かに迫りくる不安
寒山寺にて

金村正次

若者(ねぶた祭りにて)
付太鼓(古川祭り)
ちょうちん

水口武彦

メルヘンの白川郷
飛騨遍路の法要

山田育夫

北国春うらら
佳日寸景

岡田則子

日短き和紙の里
街の片隅み

重山照夫

乗鞍高原の秋
錦秋

山脇八尋

朝露の真珠
雨上がり

北村長干男

鯉のまつり
縄張り争い

高藤幸雄

五郎七の滝
沢上谷溪流

保谷武成

緋の滝
雨にうたれて

上台勇

静寂
彩り

野道淑美

湖面

岩村康子

ビバ!!高山

林正幸

灯

[細江光洋氏 略歴]

大正九年、上一之町に生まれる。本名 綱一。

戦前より、飛騨日日新聞社写真部勤務の父の助手を務める。昭和二十二年、富山新聞高山支局の記者となり、高山別院の大火などを取材する。古老への取材を通じ、民俗資料、飛騨の風土に興味を抱き熱中する。

昭和二十三年、カメラ雑誌『フォトグラフィ』への投稿をきっかけに本格的にカメラの勉強を始め、観光岐阜県名勝コンクール、東海観光風物写真コンクール、国際写真サロンなどで実績を積む。

昭和二十七年、現代アマチュア写真展、七大写真雑誌傑作展に出品。世界各国の著名写真家の作品を一堂に集めた世界写真展（スイス・ルツェルン市）で「屋根」が推薦となる。『キング』九月号（講談社）で「山羊と子供」が表紙を飾り、『アサヒカメラ年鑑』に「吊り橋」が掲載される。

昭和二十八年、『飛騨・高山』（岩波写真文庫）刊行、この年、富山新聞を退社し、営業写真館を営み独立する。

以後、数々の著名なコンクールに入選を果し、様々な雑誌、観光物の表紙を飾る写真を撮影。飛騨の魅力を、日本のみならず世界へと発信し続けた。

平成十五年没、享年八十三歳。

[著作]

『飛騨・高山』（S28 岩波写真文庫）、『飛騨・風土と民俗』（S39 朝日新聞社）、『飛騨特集』太陽9月号（S40 平凡社）、『日本の旅／信濃・飛騨』（S41 小学館）、『カラー旅／信州と飛騨』（S43 主婦と生活社）、『飛騨路の四季』（S45 朝日新聞社）、『ワイドカラー日本9／日本アルプス』（S45 世界文化社）、『日本の旅／東海・飛騨』（S45 小学館）、『ブルーガイドブック／高山・飛騨路』（S45 実業之日本社）、『文学の旅9／飛騨・東海』（S46 千趣会）、『特集・秋の飛騨路』日本と世界の旅9月号（S46 山と溪谷社）、『山と雪に挑む人びと』（S49 ほるぷレコード）、『オールカラー豪華風景写真集／日本の作家34人集』（S49 毎日新聞社）、『日本の旅路・ふるさと物語5／信州・飛騨』（S50 千趣会）、『タウンガイド高山』（S52 山と溪谷社）、『カラー飛騨路の魅力』（S53 淡交社）、『飛騨山王宮之絵馬』（S53 日枝神社）、『世界写真全集11』集英社のポスター「高山祭」コマースシャルアートの部、『細江光洋写真全集第1～3巻』（H5～6 郷土出版社）、『北アルプスの乗鞍岳』（H7 丹生川村）、『幻の集落を追って50年～白川郷』（H8 白川村）、『大正生まれの写真家たち～75人』（H8 日本カメラ社）、『写真集／雪国—北飛騨かわい』（H10 郷土出版社）

協力：岐阜県美術館・細江せつ子氏・細江篤史氏(Hosoe Studio)